

令和 5 年度 大学塾 第 3 ステージ 開催講座 案内

元歌舞伎座支配人の歌舞伎入門講座Ⅲ カブキの楽しさ見つけよう！

歌舞伎は江戸時代の日本人が創り上げたエンターテインメントの最高傑作です。そこには優れた色彩感覚や言葉の遊びが溢れ、綿密に練り上げられたストーリーは自由奔放に展開し奇想天外な楽しさで観客を魅了します。

歌舞伎は江戸時代の大衆芸能ですから決して敷居の高いものではありません。皆さん江戸の世界を満喫しましょう。



- 講 師 : 金田 栄一 氏 元歌舞伎座支配人 中央区民カレッジ講師
日 時 : 12月6・20・27日(水曜日)全3回 午後2時~4時
会 場 : 足立区生涯学習センター(学びピア21内)4階 講堂
講義内容: 第1回 心にひびく名セリフ(知らざー言って・・・)
第2回 アイデアあふれる衣装とデザイン
第3回 歌舞伎演目深掘り(勸進帳・忠臣蔵)

あだちサークルフェアー2023 参加報告

あだちサークルフェアー2023は10月7日、8日とA-Festaと共に4年ぶりに賑やかに行われました。お天気にも恵まれ、たくさんの方々が来場しました。

「楽学の会」は学びピア21の4階ロビーに展示スペースを設置、ボード7枚を使って講座風景や日頃の活動状況の写真を展示いたしました。中央を軸に左右に広がる展示はそれなりに見ごたえがありました。

実績をまとめた資料や講座のチラシ、入会チラシ等も置き、見学に訪れた方に会員が積極的に話しかけ説明をいたしました。

10月7日は高齢者の見学者が多く、8日は子ども連れの家族の姿が目立ちました。講座に興味を持って質問や参加方法などをお聞きになる方、夫の退職後の活動にこのボランティアを勧めたいと言われた伴侶の方、講座に出てみたいと言われた方々など、それなりに交流や話しはできたかと思えます。当日は、入会希望者などの実績には結びつきませんでしたが、資料もかなりお渡しできたと思えます。不特定多数の人たちに呼び掛けるこんな活動が、後日何らかの反応で返ってくればとても嬉しく思います。

ロビー内の右隣はハワイアンでレイやフラワー作製の展示・販売、左隣はトールペイントの展示・販売で両隣の方々とそれぞれ交流ができ、気に入った作品の購入をしたりしました。学びピアの施設を利用していろいろなボランティア活動に携わられる方々が、こうして一堂に集まりフェアをやることは、他の団体や組織を知るいい機会でもあります。8日の終わり近くに実行委員長の林太一氏が各団体に挨拶に来られ、

「楽学の会」にも寄って頂きましたので記念に当日のスタッフで写真を撮らせていただきました。

2日間の要員は延べ12名の方々が参加し、それぞれの役割を果たして頂きました。2日間ご協力いただいた会員のみなさんお疲れさまでした。ありがとうございました。

(ボランティア活動推進部)



令和5年度 大学塾 第2ステージ 開催報告

西郷隆盛の生涯と幕末・明治

9月2日(土)・16日(土)・24日(日)・30日(土)の4回にわたり生涯学習センター5階研修室1にて開催された。講師は江戸時代を中心とした歴史研究家の大沢正明氏。受講者は34名。出席者は第1回32名・第2回30名・第3回28名・第4回31名・累計で121名であった。



第1回は「西郷の誕生から島津斉彬時代」として、まず西郷の家系図が示され、親兄弟孫の世代まで一族が紹介された。誕生(1828)から32歳(1860)の頃までの頭角を現す前の時代で、西郷は御小姓与という下から2番目の下級武士であった。26歳で伊集院須賀と結婚し、2年後に離婚。28歳で藩主島津斉彬に従って江戸に入り、藤田東湖・橋本左内らに会う。30歳で斉彬の養女・篤姫の將軍家への輿入れに奔走する。32歳の時に斉彬が死亡する。近衛家より僧・月照の保護を依頼されるが、薩摩に保護を求めたが結局殺されることを知り、錦江湾で共に入水する。月照は死亡し西郷は奇跡的に助かった。藩より奄美大島へ潜伏を命じられる。

第2回は「西郷と島津久光と大久保利通」で、西郷が33歳から38歳の頃である。1858年に安政の大獄・1860年に桜田門外の変が起きるが、奄美の西郷は1859年龍佐恵志女・愛加那(現地妻)と2回目の結婚。1862年島津久光に呼び出されるが、寺田屋事件などで久光の怒りを買って、7月徳之島に2度目の配流となった。1864年召喚され京都へ出るが、池田屋事件・蛤御門の変・勝海舟との面会などを経験し、第一次長州征伐を委任される。

第3回は「戊辰戦争と江戸開城」で39歳から42歳の頃まで。1865年薩摩に帰り、岩山糸子と3回目の結婚。幕府の天狗党処分を拒否し、第二次長州征伐拒否の藩論をまとめ、中岡慎太郎・坂本龍馬らと薩長共和へ動く。1866年薩長同盟結成。大目付となり家老座への出席を命ぜられる。1867年四候会議(薩摩・越前・土佐・宇和島)を建言するも、徳川慶喜と四候の意見が合わず空中分解。薩摩・長州・土佐の三藩盟約を結び、倒幕の密勅を受ける。10月慶喜は大政奉還。1868年1月鳥羽伏見の戦い、2月慶喜が上野寛永寺に閉居、4月江戸開城、5月上野戦争、7月江戸を東京に改名、9月大目付となり、9月に天皇が東京へ移った。



第4回は「鹿児島下野と西南戦争」で43歳から49歳まで。1896年西郷は薩摩藩の一代寄合(上級武士)となり、位階は正三位を送られる。1870年位階は返上し、薩摩藩大参事となる。太政官への復帰を承諾し、岩倉具視より親兵制の提案を受ける。1971年薩摩藩の親兵を組織して上京。7月廃藩置県の詔が出て、10月欧米使節団を見送る。1872年参議兼陸軍元帥・近衛都督となる。太陽暦が採用され・徴兵令が公布された。1873年征韓論で自らの遣韓使節が認められず、参議・陸軍大将・近衛都督を辞し、位階を返上する。

1874年私学校・吉野開墾社設立。1877年2月西南戦争勃発し、9月終結。9月24日西郷は別府晋助の介錯により死亡。享年49歳。

受講者の言葉・レジメが順序よく整理され、それに合わせての説明が明快で、西郷公の経歴を理解でき、大変興味深く感じる事が出来ました。・詩吟を習い始め、西郷・松陰・東湖・斉昭・象山・海舟・博文などの理解を深め、吟じてゆこうと参加しました。・楽学の会は8月がお休みで物足りなかつたです。毎月楽学の会を受講させて頂く事が、生活のポイントとなっていました。

(糸井史郎)

防災研修

10月の月例会は、「防災研修」を行いました。講師は足立区生涯学習センター 平野昌暁所長様にお願いいたしました。活動時の災害発生時対応の資料に基づいてお話をいただきました。

まず初めに、災害時の対応で大切なことは、「当たり前が当たり前でできる」ことが最も重要であるということです。慌てて浮足立つとパニックになり、二次災害を引き起こしかねないので、落ち着いて対応することが求められます。

“火災時の対応”

火災報知器が発報した場合には慌てずに館内放送を聞いて放送での指示を待ち、むやみに避難を開始しないようにします。火災による避難は、火災発生階とその上階を優先します。

避難経路となる通常使用しているC階段（エレベーター横の階段）、普段は閉鎖されているA階段（都民タワー内の階段）の名前と場所はきちんと覚えておく必要があります。

また、火災を発見した場合は迷わずに119番通報、火災報知器の発報をします。重複してもよいので、気がついた人が積極的にやって欲しいとのことです。そして、普段より避難経路、非常階段、非常口を確認しておきましょう。

火災等の非常時には誰でも慌ててしまうのが普通ですが、区民大学塾開催時など私たちスタッフが慌てる利用者もパニックを起こすので、とにかく落ち着いて行動するようにしなければなりません。

“地震時の対応”

大きな揺れを感じた時は、まず自分の身の安全は第一に机の下などに隠れ、できれば出入り口の確保を行います。地震の場合は原則即時避難はせず、待機しながら余震などの様子を見ます。落下物の危険のある所やガラス面などから離れ、屋内で危ない場所から安全な場所へ移動しますが、外には出ません。学びピア内の講堂であれば、ステージ付近から離れ、客席側や廊下、ホワイエあたりは危険が少ない所です。

余震が落ち着いたら、けが人や被害状況等を施設内の職員に報告し、職員の指示に従います。公共交通機関が動かないときは施設内待機となる場合もあります。毛布、飲料水、食料等の備蓄が施設内に確保されています。

“台風・水害時の対応”

台風や水害の危険性がある場合はあらかじめ予報等でわかるので、施設利用は中止になります。学びピアの施設は、周辺住民の避難場所になります。2019年の台風・水害時は200人の受け入れを行いました。

最後に来年1月の休館日に学びピア施設内で防災訓練実施の案内がありました。所長さんより私たちの会も参加できますのでどうぞと呼び掛けていただきました。この機会に我が会員も一緒に訓練ができればいいなあと思っています。お忙しい中、研修して頂いた平野所長さんに感謝いたします。

(ボランティア活動推進部)



防災研修

令和5年10月17日
楽学の会様

オフグリッドハウス「松江の家」

クリーンエネルギーの導入、太陽光発電パネルを活用した、
オフグリッドハウス「松江の家」見学会



足立区環境ゼミナールの見学会に参加してきました。江戸川の環境 NPO 法人「足温ネットエどがわ」が構築した自然エネルギーの力だけで生活できる「自産自消」の住まい「松江の家」。2階の南側の屋根に太陽光発電パネルを設置、温室効果ガスの削減を図っています。取り出した電力は6つの鉛バッテリーに蓄電、ブレーカーに繋いで家の中のコンセントから使用できます。災害時などで停電した時なども、地域の方たちに解放され携帯の充電などの提供が出来るそうです。冷蔵庫や洗濯機などの大量の電気を使用する機器の使用にはもう少し大型のインバーターやバッテリーが必要となる

が、更に蓄電池の改良が進み安価で設置できるように成れば家庭でも電気を作って利用し余った電気は売電するなど、そんなオフグリッドハウスが普通に出来るのもそう遠くないかもしれません。

(※オフグリッドハウスとは：自家発電を行い、電力会社からの送電を受けずに電気を自給自足できる家)



また、市民グループ「江戸川子どもおんぶず」が、子どもの権利社会の精神を生かした市民社会づくりを目指すことを目的として●は織り体験「さをり織り」●糸紡ぎ●糸あそび●子ども防災マップづくり●ソーラークッキング●手仕事ワークショップ●お庭でお茶会●映画上映会、などの様々な活動をオフグリッドの施設ハウス「松江の家」で、実践されています。

太陽光発電は、日本で導入されている水力発電以外の再生可能エネルギーの中でも最も多い発電量を誇ります。太陽光発電は、温室効果ガスを排出せず、国内でエネルギーとして発電出来ること

が大きなメリットで、災害時停電しても電気が使える、環境にやさしい、断熱効果、電気代削減や売電などによって経済的なメリットも得られます。

国も FIT 制度や補助金制度などによって普及を推進していますが、CO2 排出量やエネルギーコストを軽減できる、災害時の非常電源として使える、などのメリットがある一方、導入のハードルとなるのは、重量が重い、初期設置費用が高い、維持管理費用(保守点検費用、保険料、経年変化や故障による修理交換費用)、売電価格の低下です。太陽光パネルの寿命は技術の向上により 30 年程度とされていますが、近年、軽量化された薄膜軽量タイプの「ペロブスカイト」太陽光パネルが従来品の形状よりもフレキシブルで曲面や壁面に設置することも可能、性能や発電効率の向上が図られていて脱炭素化を加速するものとして普及が期待されています。(※FIT 制度とは：電力会社による固定価格での買取制度です)

2016 年.NPO 法人「足温ネットエどがわ」が、立体駐車場の 2 階に太陽光発電パネルを 192 枚設置。えどがわ市民発電プロジェクト「ソーラーパネル えど・そら 3 号機」では、設置費用を 8 年後一括償還できるとの試算がされています。
(あだち環境マイスター 金子勝治)



オフグリッドハウス「松江の家」



松江の家「ソーラーパネル」



ソーラーパネル「えど・そら 3 号」

令和5年10月運営委員会 報告・連絡

日 時 : 令和5年10月2日(月) 14:30~

場 所 : 生涯学習センター : 5階 研修室 4

代表挨拶 : 報告および提案

篠原代表が病氣療養に入られました。9/15の理事会において、糸井が代表代行に選出されましたので、代表の復帰又は任期満了まで代表代行を務めさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

NP020周年事業につきましては、既に記念誌の発行は決定ですが、報告会やパーティーを北野大さんの講演会に変更の方向で検討します。

9月度月例会において松下さんが活動報告をしてくれました。つい最近まで企業で勤務されていた立場から、我々の今までやってきた事務処理やPCの管理などに警鐘を鳴らして頂きました。これからは合理化・省力化に皆で取り組んでゆく必要があると思います。宜しくお願いいたします。

議 事

(1) 役員人事

- ・篠原代表理事体調不良により代表理事退任、糸井副代表理事が職務代行する。(定款15条による)
任期は令和6年6月まで。9/15理事会で決定した。なお講座メール受付業務は篠原理事に継続、担当。事務局当番纏めは福田理事が担当、講座の応募受付纏め(ハガキ、メール受付合体)は林理事が担当
20周年事業実行委員長は糸井副代表理事が担当。
- ・顧問の瀬沼克彰氏 7月24日 逝去されました。(20周年誌のメッセージ投稿依頼し判明、奥様より)

(2) 月例会開催について

- ・9月 9月15日(金) 新会員の活動報告
- ・10月 10月17日(火) 防災 災害時の協力体制について:生涯学習センター 平野所長
- ・11月 11月16日(木) NPO法人設立20周年事業 準備会議報告 討議

(3) あだち区民大学塾 : 講座企画会議 : 10/2(月)、11/1(水)、検討会議 : 10/17(火)、11/16(木)

- ・9月 西郷隆盛の生涯と幕末・明治 大沢正明講師 9/2、16、24、30 応募者37名、受講者34名
徳川家とあだち 堀口茉純講師 9/18(祝、月) 応募者125名、受講者102名
- ・10月 鷗外と漱石 倉本幸弘講師 10/15、29、11/5 申込締切10/2 応募者46名
池波作品を愉しむ 鶴松房次講師 10/22(日) 申込締切10/9 応募者55名
・「池波作品を愉しむ」講座チラシ足立区情報スタンド差込が許可された。前回と同場所、9/4~30
- ・11月 ポスト印象派を楽しむ 島田紀夫講師 11/8、15、22(水) 応募締切 10/25

(4) NPO法人設立20周年記念事業

9/15第1回全体会議、編集会議開催した。記念誌は10月末原稿完、印刷12月中予定で推進する
報告会、祝賀会の開催可否はペンディング。

20周年記念大学塾特別講演会の提案あり、場所、日程を詰める。

区民還元事業、足立区出身の北野大氏、環境問題の講座、会費無料、2月開催予定で調整する

(5) 各部局からの報告および提案

①学習支援部

- ・池波作品講座は講堂だが机・椅子で60名席作る協力をお願いする、運営ボランティアを募集する
- ・令和6年度大学塾講座の検討を開始するので講座の提案をお願いする。10月検討会議より検討する。

②ボランティア活動推進部

- ・部会 10/4
- ・サークルフェア2023:10/7、8:参加 展示場所は4階ロビー
- ・あだちNPOフェスティバル:11/19:参加、エルソフィア3階第2学習室

③事務局

- ・ニュース発送 10/3、部会 10/11、令和5年度上半期決算する

④広報グループ

- ・ニュース10/2発行、HP/メルマガ更新、

(6) その他

- ・「社会教育」10月号ロッカーに

次回運営委員会 11月1日(水) 14:30から(研4)

◎講座名：メンタルヘルスから考える 誰もが暮らしやすい地域とは

あだち 100 年大学講座

日 時：12/9 (土) 午前 10 時～正午

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

受講料：800 円

定 員：対面 20 人、オンライン 20 人

(どちらも事前申込先着順)

講 師：三木 良子 氏

(帝京科学大学医療科学部福祉学科 准教授)

内 容：こころの健康は近年、さまざまな世代に身近で、健康のポイントとなっています。学校や職場、地域においても、多様性を認め、生かすことが求められている今、誰もが暮らしやすく、こころの健康を保てる地域の在り方や関わり方を学びます。

◎講座名：山階鳥類研究所連携 絶滅寸前から蘇った鳥「シジュウカラガン」 の渡りを追って あだち 100 年大学講座

日 時：12/24 (日) 午後 2 時～3 時 30 分

対 象：16 歳以上の方

会 場：5 階 研修室 1 (対面)

受講料：500 円

定 員：対面 60 人 (事前申込先着順)

講 師：澤 祐介 氏 (山階鳥類研究所 研究員)

内 容：かつて日本の空から姿を消したシジュウカラガン。1980 年代から日本雁を保護する会が中心となり、日本に渡るシジュウカラガンを復活させる取り組みがされてきました。現在、その数は 1 万羽以上に回復しました。どのようにして個体数を回復させたのか？そして失われた渡りルートはどのようにして復活したのか。最新の研究を交えて紹介します。

お申込みは：電話(03-5813-3730) 又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の中止、延期の場合もございます。予めご了承ください。

- ◎ 運営委員会
11 月 1 日(水) 午後 2 時半～4 時 研修室 4
- ◎ 月例会
11 月 15 日(水) 午後 3 時～5 時 研修室 4
- ◎ 学習支援部
11 月 15 日(水) 午後 1 時～2 時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
11 月 8 日(水) 午後 2 時～4 時 ワークルーム
- ◎ 事務局
11 月 2 日(木) 午後 2 時～4 時 ニュース発送
11 月 14 日(火) 午後 2 時～4 時 事務局部会
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
11 月 15 日(水) 午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
11 月 1 日(水) 午後 1 時半～2 時半 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
11 月 13 日(月)

★お問い合わせ&ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail : tefukuda2002@ybb.ne.jp

編集後記

楽学ニュースの発行が 300 号を迎える

令和 5 年 10 月末、楽学ニュース 300 号を発行することが出来ました。平成 8 年 9 月に第 1 号の創刊号が発行されてから何んと 20 年が経過。過ぎし日の歳月は「光陰矢の如し」の感がある。会員の皆様のご協力により今日まで続けられて来た「楽学ニュース」、先輩たちの努力した数々の足跡に想いを馳せる。当時は多くの方が関わり記事も貼り付けの手作業で随分苦労も多かったようですが、ワイワイ楽しく作業が行われていたようです。現在は事前情報を基に取材編集と校正を行っているため、ほぼ 3～4 日間ほどで出来上がります。今年度は「楽学の会」の NPO 法人設立 20 周年です。記念誌の発行、特別講演会などの企画が進められています。会員の皆様全員が事業に関わって頂き、成功裡に終える様にご協力のほどよろしくお願いいたします。(金子 記)



月例会のご案内

令和 5 年 11 月「月例会」のご案内

11 月 16 日 (木) 午後 15 時～ 研修室 4
テーマ：NPO 設立 20 周年事業 準備会議 報告

令和 5 年 12 月「月例会」のご案内

12 月 15 日 (金) 午後 15 時～19 時
テーマ 1：1 年を振り返る 研修室 4 15 時～
テーマ 2：情報交換・懇親会 日本海 17 時～

*皆様の積極的な参加をお待ちしています。
(ボランティア活動推進部)